

千葉縣道路愛護映畫

長谷川伯裂

大東亞戰下の道路愛護會員に時局の重大性再認識の刺戟を與へ兼て物資勞力二つながら窮乏裡にあつて能く食糧確保に燃ゆる努力を傾注せる銃後の農村に一夕の慰安を提供する目的のもとに農家に於ける最も閑散時と見らるゝ盛夏即ち本年七月十九日より約二旬餘に亘りて縣下の希望町村を順次巡迴映畫會を開催せしに本年は初夏以來順調なる天候に恵まれ當時既に稀有の豐作を豫想せられし際として各地とも非常なる期待を以て迎へられ殊に晴天續きの爲め二十餘町村中英靈歸還に依り遠慮取り止め二ヶ村停電の爲め中止一ヶ村を出せし外全部當初の日割に一日の變更もなく豫定の通り確實なる實施を見各町村とも一の例外なく文字通り立錐の餘地なき超滿員にて觀衆窓外に溢るゝの盛況を呈し八月十二日東葛飾郡風早村を最後として大成功裡に終了せり。

最初映寫フィルムは道路愛護會の作業實況の場面を撮影せしも

のか又は其の脚色に道路愛護思想の織り込まれある劇物を一卷にても番組中に盛り込むべく各方面を物色せしも竟に入手し得ず已むを得ず、道路改良會の斡旋にて獨逸國有鐵道觀光局東京支局の好意により道路建設具の他高級フィルム數卷の貸與を得て縣映畫協會技士とはかり左の番組を作れり。

映畫番組

- 一、銃後の人々 文部省推薦劇
 - 二、世界自動車競争 獨逸觀光局貸與
 - 三、總統道路の建設 同
 - 四、團子の行方 漫畫
 - 五、自動車道路を走る 獨逸觀光局貸與
 - 六、力の勝利 劇
- 以上の番組に依り八月の國民學校暑中休暇期に入れば兒童同伴

旅客輻湊の爲め當然汽車自動車の交通機關や旅客の雜沓を考慮し先づ安房地方を第一着手として其の以前に終了せしむる豫定にて別表の日制を定め場所は大體國民學校とし月明其の他廣狹等を考へ或は校舎内に或は校庭に取捨實施せり。

當夜は劈頭先づ國民儀禮を執行して觀衆を緊張せしめ次で主催者より映畫會開催の趣旨と道路の重要性を説きて映寫に入り順次番組を進行せしめ中間適當の間隙を利用して土木課派遣員より大要別項の時局と交通に關する講話を試み、尙獨逸觀光局貸與の映畫についても簡單なる解説を加へ觀衆中の老幼婦女にまで效果の徹底を期せり、而して觀衆は世界自動車競争の規模の大なる總統道路の建設及自動車道路を走るの畫面に於ける計畫の遠大にして組織的なる使用器具機械の整然として完備せる一として驚異の眼を瞠らざるなく驚嘆の呻きを漏さざる無く老若も少年も等しく大なる感激に終始せしめ或る一二ヶ所の外は蒸すが如き苦熱裡に在つて最も靜肅に最も熱心に觀覽且つ聴取せるを目撃したるは映畫班一行の胸底蓋し満足を禁し得ざるものありし。

今各所に於ける入場者の概數を表して示せば左の如し。

映畫會成績表

月 日	郡町村名	場 所	觀覽者數	備 考
七月 六日	市原郡市東村	役場前庭	五〇〇	
七月 十八日	安房郡八束村		中 止	英靈歸還 ノ爲メ

映畫會場に於ける講話の要旨

七月十九日	瀧田村	講 堂	七〇〇
七月二十日	佐久間村	校 庭	九〇〇
七月廿一日	白濱町	講 堂	一五〇〇
七月廿二日	豐田村	講 堂	中 止
七月廿三日	丸 村	講 堂	一〇〇〇
七月廿四日	曾呂村	講 堂	六〇〇
七月廿六日	夷隅郡總野村	校 庭	六五〇
七月廿七日	古澤村	校 庭	七〇〇
七月廿八日	市原郡里見村	教 室	七五〇
七月廿九日	富山村	講 堂	六〇〇
七月三十日	高麗村	講 堂	八〇〇
七月卅一日	内田村	校 庭	七〇〇
八月 一日	海上村	校 庭	八〇〇
八月 三日	山武郡松尾町	校 庭	中 止
八月 四日	香取郡日吉村	教 室	七〇〇
八月 六日	東葛飾郡布佐町	公會堂	六〇〇
八月 七日	富勢村	講 堂	一〇〇〇
八月 八日	田中村	農 會	七〇〇
八月十一日	柏 町	講 堂	九〇〇
八月十二日	風早村	教 室	一〇〇〇

英靈歸還
ノ爲メ

蘆溝橋畔一發の銃聲は支那事變五年の戰禍の端となり延いて昨年十二月八日竟に暴戾なる米國及英國を敵として大東亞戰にまで發展しまして我が海陸の忠勇なる將兵即ち皆様の父兄たり夫子たる方々は遠く異郷に在つて赫々たる戰果を擧げつゝある反面には或は敵陣に或は嚴寒酷暑に又は毒蛇に瘴癘に筆古に盡し難き辛苦を嘗めて居らるゝことは皆様が疾くに御知悉の通りであります。

此の重大時局に際しまして吾々銃後の同胞は何事を差し措いても先づ食糧其の他の増産確保に努力しまして第一線の將兵に後顧の憂なからしめ此の戰爭をして最後の勝利を獲得するまで假令何年何十年かゝりましても勝ち抜き戦ひ抜かねばならないのであります。

而して其の増産と云ひ或は生産擴充と稱する仕事には先づ交通の良否が第一條件であることも亦皆様の日常痛感らせてゐる事と存するのであります。然るに此の空前の大國難時の縣豫算は甚だ遺憾ながら絶対に増額を認められないのであります。而も物資は漸次缺乏を告げ爲めに物價は甚だしく暴騰を來してゐる今日と雖も依然として前年度通りの豫算に甘んずる外ないのであります。隨て皆様が従來の觀念に捉はれて縣道は縣の手で修理するものと古い御考へであつたならば今後の道路は益々荒廢に傾くのは避け得ないのであります。到底銃後の生産擴充とか食糧確保を實現することは至難となつて來るのであります。

茲に於いて私が特に皆様に御継りしたいのは農村の皆様が多く働き盛りの方々を軍部に軍事工業に送りまして非常なる手不足のみならず種々銃後の行事に御忙しい中を甚だ御迷惑とは存じますが勝ち抜くための銃後の仕事の一つとして町村内の道路は縣道と云はず町村道と云はず路面の修理を始終念頭に置かれ敢て多勢を要しません。又終日作業することも求めません出來得るだけの小人數でもまた田畑の往き復りの通りかゝりの少時間でも休日などの貴い半日でも結構ですから折に觸れ機に臨んで道路の手入れを怠らない様希望してやまないものであります。

而して斯くする事が銃後に於ける吾々國民の執るべき常道であつてまた此の曠古の大東亞戰の最後の捷利に達する道程と確信するものであります。

映畫巡迴の所々

白人生

漣列車 三句

鐵戸を閉めて眞晝の避暑列車

遅速ある風車の風や青田原

灌漑の風車動かす雲の峰

屋外映寫

流れ來し螢消えけり映寫幕

外房 五句

大浪に乗り損ねけり游の子

一抱つつ皆カジメ持ち游の子

俄雨繋げる牛を連れ戻る

長廊下走る蟹あり避暑の宿

灯ともらぬ燈占を見て端居哉

東 總 三句

バスの客ふれあふ汗の肌と肌

日盛や花摘みとりし煙草畑

灯ともさぬ縁の夕飾や夏の月

小湊鐵道沿線 二句

川風に下腹冷ゆる鮎の笹

隧道や滴る音のまへうしろ

手賀沼 三句

手賀沼へ注ぐ流れや早稲の花

醫者らしき人の車や早稲の花

沿縁や二タ年振りの稲の花

大社詣での道

(二)

澁谷太郎

京、大阪から大社への道

大社詣では今では一瀉千里といふやうに凡ての旅客は京都からも大阪からも一日に一回出る急行列車を利用して僅かに七八時間で大社驛まで行つて、それから幅十間餘もあるやうに思はれる實に

立派なコンクリートで舗装された大社參拜道路をバスなり徒歩で兩側に居並ぶ大社詣りの土産ものを賣る賣店や飲食店を見ながら歸へりには土産に何を買ふかと、どこにはいて一寸と食事しやうかと考へつゝ、ホンの一兩日で大社詣でをすまして歸へることが出来るが、昔はなかく左様に簡単に出来なかつたさうである、大